



2 庄原市まちづくり基本条例制定

1_平成25年2月末に完成した東城自治振興センター／2_比和自治振興区の公民館事業「博物館に親しむ」／3_多くの市民で話し合い、内容を決めていった「庄原市まちづくり基本条例策定委員会」／4_市民が知り合いつながらる場として開催された「しょうばら愛サミット」

本市のまちづくりにおける最高規範を制定
合併後は、自治振興区をはじめ、各種市民活動団体、個人などそれぞれが主役となつて「まちづくり」は進められていきましたが、市民と議会、行政が共にまちづくりを進める仕組みが明らかになつていませんでした。
それぞれがルールに則つてお互いの立場を理解し合いながら、協力して「まちづくり」を進めることができるこ

とを記載した条例を策定するため、市は平成21年度に策定委員会を立ち上げました。策定委員会ではアンケートを実施し条例素案を取りまとめ、平成23年3月、市長へ提出。また、条例の内容を広く市民に伝え、意見をとり入れることができるシンポジウムを開催しました。
こうした過程を経て、「庄原市まちづくり基本条例」が平成24年4月1日に施行。庄原市をもっと暮らしやすいまちにするために、みんなが共に考え、協力し合い、行動するための「基本的な約束」が明文化され、本市のまちづくりにおける最高規範として位置付けています。
条例施行後、まちづくりに対する新たな動きが生まれてきています。
市は、市民が自由に話し合うための集いの場づくり（しょうばら愛サミットの実施）や、小中学校への出前講座、事業に対し広く市民の意見を聞くプランナー・モニター制度を利用して情報を共有・収集。市民活動では、高齢者の日常生活を地域の人が支援する有償ボランティア制度「助っ人プロジェクト」に



元庄原市自治振興区活動促進補助金審査会会長・元庄原市まちづくり基本条例策定委員会委員長
野原建一さん

この10年、さまざまな事業提案を受けてきた中で特に印象にあるのが、自然景観を強化する取り組みです。身近な自然景観を見過ぎてしていることはよくありますが、総領町の節分草、東城の福寿草、城跡といった自然景観を自分たちの宝にしていることは、すばらしいことだと思いました。こうした地域の宝を地域外の人にも知ってもらおうとする皆さんの熱意はすばらしく、補助金の使い方として有意義だと思います。
庄原市まちづくり基本条例の策定では、策定委員会の委員21人中10人が女性で、ここまで多くの女性が関わった条例策定は他の市町村にはなく、女性の目線を生かした条例となっております。

私の好きな言葉に「共に働く協働の精神」というのがありますが、この言葉のように住民と行政が一緒になって知恵を出し合い、庄原のまちづくりを進めるために働いてほしいと思います。



庄原市制施行10周年記念特集 vol.6

まちづくりの10年

合併から10年を振り返るシリーズ。
最後となる今月は、まちづくりをテーマにお届けします。



1 自治振興区の推進

自治振興区の設置とセンター化の推進
本市のまちづくりを語る上で、自治振興区の存在は欠かせない要素です。
自治振興区は、合併協議会で決定された方針により住民自ら立ち上げた自治組織で、合併にあわせ市内に88組織が誕生。広大な市が誕生したことと、新市としての一体感の醸成が求められたことから、旧市町の区域ごとに自治振興区連絡協議会、市全域で自治振興区連合協議会（後に自治振興区連合会に名称変更）が設立され、連携を図るなかで活動が進められてきました。
こうした中、典型的な中山間地域である本市は、過疎・少子高齢化に伴う活動の停滞や担い手の確保など、地域の維持や振興の課題が複雑で多様化し、行政だけでは対応できなくなってきたことから、自治振興区の果たす役割が大きくなり、その期待も高まっています。
そして、各地域では公民館自主運営協議会による公民館活動も展開されていたことから、地域活性化や住民福祉の向上を図るといふ共通の目的

をより達成できるよう、公民館の自治振興センター化に向けた議論が進み始めました。そこから多くの議論と検討によって、公民館は自治振興センターへと移管。88あった自治振興区は平成25年4月に22に再編され、地域のまちづくり活動の拠点が整いました。
この再編によって、より主体的な取り組みが進められています。

庄原市自治振興区連合会会長
藤谷善久さん



10年間を振り返ってみて、地域で目に見えて成果のあった変化は自治振興区だと思います。市からの情報を伝達する行政区から、自ら地域課題の解決を図る自治振興区への変更は大きな転換点となりました。
かつてない少子高齢化や過疎化が進む中、地域をどう存続させていくのかという大きな課題に直面しています。また、行政の手の届きにくい地域の身近な取り組み、例えば地域包括ケアシステムや自主防災、高齢者の見守り活動といったことも、それぞれの地域で担う時代となっています。
今後の10年を決定付けるのは、自分たちの将来のことを見据えて、地域の資源をどう活用しながら、自分たちが何にどう取り組むかです。庄原市自治振興区連合会では、各振興区での取り組み内容を共有し、自治振興区相互の交流促進を図りながら、行政と協働し、「いちばん住みやすいまち庄原」を築いていきたいと考えています。





峰田自治振興区
地域マネージャー
山下賢治さん



平成26年から峰田地域振興計画にある「助っ人プロジェクト」の仕組みづくりのため、地域内の各種団体との連携、連絡調整を専門的に行う地域マネージャーとして委嘱されました。

区民が依頼者になったり支援者になったりする相互扶助組織「お助けネット峰田」を同年7月に立ち上げることができました。既に200件余りの支援活動が実行されています。今後も「お互いさま」の気持ちで区民の皆さんの利用が増えれば良いと思います。

また、本年度からは自主防災組織の活性化に取り組んでいます。大規模な災害が起こったときこそ、「自助」「共助」「公助」がうまく連携することが重要ということを踏まえて活動しています。古里である峰田への感謝の気持ちを持ちながら、「自主防災マップ・マニュアルの作成」や「防災計画の立案・見直し」など、峰田に暮らせてよかったと思える「安心安全な峰田」を目指し、取り組んでいます。

**地域マネージャーが
地域課題の解決に力を発揮**

市は、地域課題の解決や目標達成のために、平成24年度から国の地域活動支援である「集落支援員」制度の活用をスタート。

「地域マネージャー」の名称で実施しているこの事業は、事務職員という位置付けではなく、自治振興区で設定した課題に対し専門的、集中的に取り組み、3年をめどに

解決を図る推進役を担います。この地域マネージャーを新たに導入する自治振興区に対して、その人件費相当分を市が負担し、支援を行っています。

現在、10の自治振興区、15人が活動しており、有償ボランティア活動の仕組みづくりや移住者の呼び込み、高齢者の生きがいづくり、特産品開発に取り組みられています。今では多くの視察を受け入れ、研修などで講師を依頼される



1 支援制度の活用

など、市内外から高く評価されています。

**創意工夫で課題に取り組み
自治振興区へ支援**

市内の自治振興区では、地域の将来像や課題の解決に向けた取り組みなどをまとめた「地域振興計画」が策定され、この計画を元に地域課題を克服するための取り組みや、地域づくりが行われています。

市はこのような活動に対し、自治振興区活動促進補助金を設け、合併当初から支援を行ってきました。

平成27年度分も含めると、11年間で224件、2億4千万円の補助金を交付。当初は一体感の醸成、新しい取り組みや行事、施設整備を中心にした申請が出される傾向がありました。現在は、より生活に密着した事業を実施するための申請が増えてきています。

補助金の交付にあたって市は審査会を行い、そこで出された助言を自治振興区に伝えるなど、より効果的な取り組みが行われるよう支援しています。

市民活動団体を支援

地域づくり・まちづくり活動は自治振興区だけでなく、市民活動団体による取り組みもあります。

多様化深刻化する地域課題の解決や地域振興のためには、市民活動団体の活躍は欠かせないことから、市は市内で活動している市民団体の連携と協働を促進するため、平成25年度に「市民活動団体登録制度」を創設。現在、15団体が登録しています。

また、こうした団体のより一層の活動を促すため、平成26年度には「まちづくり応援補助金制度」を創設し、資金の支援を行っています。

終わりに

本市も、時代の変遷とともに抱える課題も大きく複雑になっています。行政だけで解決することが困難なものが増えてくるからこそ、まちづくり基本条例による参画と協働、それぞれの立場や役割に応じて補完し合うことが、これからのまちづくりには大切であり、今後より一層求められてきます。

●庄原市自治振興区活動促進補助金活用事例紹介

**【久代自治振興区(為重自治振興区)】
ためしげ福寿草の里の整備事業**

久代自治振興区統合前の為重自治振興区では、平成19年度に同補助事業を活用し、地域資源である「福寿草」の自生地に案内板などを設置。子どもから高齢者、車椅子の来場者も安全に散策鑑賞ができるよう翌20年度には散策遊歩道を整備し、22年度には来場者の利便性を図るため簡易トイレを整備しました。

これにより、毎年3月に開催される「福寿草まつり」には多くの人々が訪れ、当初から目指していた『「通り過ぎる里山」から「立ち止まる里山」へ』を見事かたちにし、地域の活性化へとつながっています。



**【高自治振興区】
歴史街道を整備**

高自治振興区では改めて古里を見直そうと、この補助金を活用。平成17年度に「ふるさと発見事業」として歴史パンフレットを作成し、20年度には「歴史街道整備事業」として城跡である要害山までの遊歩道整備をしました。

この遊歩道は、毎年行われている「のろしプロジェクト」のための道としても活用されています。24年度にも同補助金を利用し休憩所を設置。毎年、小学生と地元の皆さんと一緒に、しいたけの菌をほだ木に植える作業を行い、交流の場としても活用されています。



5



4



3



6

1_ お助けネット峰田 / 2_ 昨年度は市内10自治振興区が取り組んだ「のろしプロジェクト」 / 3_ 庄原市自治振興区連合会が各自治振興区の独自の取り組みを広く紹介する「まちづくり実践セミナー」 / 4_ 毎年、活動促進補助金を活用し実施した事業をポスター展示 / 5_ 庄原市自治振興区連合会・市合同の先進地視察研修(鳥取市鹿野町) / 6_ 平成26年度「まちづくり応援補助金」を活用し保育に関するシンポジウムを開催した「(一社)里山こども未来会議」